かずさの博物誌

アカアシシギ

～くちばしと脚が赤い中型シギ～

文・写真／成田篤彦

2014.11.20

仲秋の盤洲（ばんず）の海岸。流れ着いたアオサが絨毯（じゅうたん）のように海岸を覆っていた。

波が静かに寄せては返す。その度に、アオサの絨毯がゆったりと動く。

肉眼ではほとんど気付かないが、その上で十数羽のシギたちが、セカセカと動き回りえさをあさっている。

沖には約二〇〇羽のヒドリガモやオナガガモなどの群れが浮かんでいた。

誰もおらず、静かでひっそりとしていた。

右手の海辺にムクドリ大のスマートなシギが大股で歩いていた。

▲バッタをくわえるアカアシシギ＝2014年9月18日　木更津市

▲飛ぶアカアシシギ＝2014年11月2日　木更津市

黄色のくちばし、真っ赤な長い脚。県内でもあまり見られない数の少ないアカアシシギだ。

珍しい訪問者がやってきたと嬉しくなった。

驚いたことにくちばしにトノサマバッタの雄？をくわえていた。

この海岸にはススキなどが生える狭い草地がある。そこから渚に飛びだしたものを捕えたのだろうか？

ここにはアカアシシギが二羽いた。一羽には足環がついていた。そこから宮城県から盤洲にやってきたと分かった。

彼らはアオサの絨毯に盛んにくちばしを差し込み、小さなカニやゴカイを捕えていた。

今月、再び、この海岸を訪れると海面から一メートルの高さを、直球を投げたようにハイスピードで飛んでいた。

長いつばさ、その先端はナイフのように鋭い。背の中央が白い。尾の横縞模様。そこから赤い脚がのぞく。しなやかな長いつばさをもつ、性能の高い軽飛行機のように美しい姿だ。

盤洲の干潟はいろいろな環境を含んでいる自然で、生きものは極めて豊富である。そのため、アカアシシギのような珍しい種を含めて多くの渡り鳥が栄養を付けて再び旅を続けるのに必要な大切なオアシスになっている。

ここにはこれから冬にかけて、また、珍しい鳥が訪問するに違いない。楽しみである。

◀アカアシシギ二羽
＝二〇一四年九月二十九日　木更津市

memo

アカアシシギ（赤脚鷸）

チドリ目シギ科

全長二十七センチ。

国指定絶滅危惧Ⅱ類（VU）、千葉県指定重要保護生物（B）。

ヨーロッパ東部、中央アジア、中国東北部で繁殖し、冬はアフリカ、インド、東南アジアに渡る。日本では春と秋に通過する。北海道東部の湿原で少数繁殖する。

千葉県では銚子、一宮、谷津干潟などで一～二羽で見られる。

干潟や水田などで昆虫、ゴカイ、ミミズ、小魚を食べる。

参考文献

日高敏隆監修1996
日本動物大百科3　平凡社

◎写真・文章の無断転載を禁じます。